

# 星々の宝石箱

7月26日(木) ~ 7月29日(日)

IN 石垣島～波照間島



	午前	午後	夜
1日目	関空に向けて出発	搭乗 石垣島到着	フリータイム
2日目	青の洞窟ツアー	波照間島に到着	星空観察
3日目	海遊び	波照間島散策	浜辺で夕食
4日目	最南端見学 波照間島を出発	思い出フォト作り 石垣島を出発	関西到着 解散式

一日目： 天気も快晴の中キャンプが始まりました。参加者皆、今までにない遠方でのキャンプに普段とは違う緊張をされていました。尼崎よりバスで関西空港まで向かい、昼食後に搭乗をしました。飛行機に乗ることが初めての方もおられ、離陸の時、手に汗を握る緊張をされていました。2時間30分かけ無事に石垣島に到着しました。飛行機から降りると、独特の熱が全身を包み、一気に南国を感じさせられました。空港よりバスに乗り換え、宿泊先に向かいました。夕食は現地の郷土料理をいただき、初日にして沖縄を存分に感じる事ができました。



二日目： 午前は『レジャーガイドジャブロー』さんにお世話になり、青の洞窟ツアーに向かいました。石垣島北側の海にて鍾乳洞探検やシュノーケルをしました。海に広がる珊瑚礁やクマノミといった熱帯魚などを観察できました。朝から初めてづくしで、一同興奮しっぱなしでした。午後から目的地である波照間島に向かいました。現地の民宿に到着し休憩後に葉書を書きました。皆、感動と楽しさと感謝を表していました。夕食をとり、夜は星空観測タワーに向かいました。日中スコールに遭い、天候の心配がありましたが、夜には見事晴れ、月の影響で5割程度の星しか見えませんが、それでも大絶景を見ることが出来ました。



三日目： 一日波照間島を堪能する日でした。日中は日本でも屈指の美しさを持つニシ浜に向かい、とことん海水浴を楽しみました。浜辺から少し海側に進むとすぐに珊瑚があり、感動がありましたが、同時に珊瑚が足に引っ掛かり「痛い!!」という感想と体験もできました。海水がとても透き通っており、魚がすぐ目の前で見ることが出来ました。夕方まで遊んだ後、民宿のはからいで、ビーチで日が沈むのを見ながら、夕食を楽しませていただきました。最後の夜を各々思いに浸りながら過ごされていました。



四日目： 朝食後に最終目的地である最南端(人が自由に行ける)に向かいました。それまでは、正直イマイチ最南端に来た実感がありませんでしたが、碑を目の前に一気に実感が沸き、ガヤガヤしていた雰囲気が静かになり、感動されていました。しっかりと記念を収め、記憶に留めました。その後は『波照間小中学校』に見学に行きました。校舎内には入れませんが、それでも校庭が芝だったり、ヤギがいたり、意外に最新設備があったり、学校の門がなかったりと私達の学校とは全く違うことに驚きと感動と羨ましさがありました。見学後、荷物をまとめ波照間島を後にしました。石垣島に戻ると最後のプログラムである、写真立て作りをしました。今までの体験を思い出されながら、真剣な眼差しで作られていました。作成後は空港に向かい、石垣島を後にしました。参加者の中には余韻と名残惜しさから、ずっと窓を見られている方もおられました。あつというまに関西に戻り、夢の世界からいつもの世界へと戻ってきました。それでも石垣島、波照間に行ったことは忘れずに持って帰ってきました。



## <キャンプ総括>

今回のキャンプは普段行っているキャンプとは様々な形で異なっていました。参加者はリピーターのみで構成されており、基本自分達のことは自分達で行う事を徹底的にしました。個人差はありますが、準備から片付けまでこちらからの指示を聞いて動いていたのでさすがでした。そして活動場所と内容です。我々が何かを用意して行うのではなく、現地に行き、時にはガイドさんをお願いし、時にはその場で自分達で楽しんでいました。これら二つにおける共通のことは『感動』と『共有』です。今までに経験したことのない圧倒的感動を独り占めしようとせずに友達に伝え、それを一緒に分かち合おうとする姿が何度も見られました。普段とかけ離れた空間は人を成長させます。それを波照間島に来て参加者、リーダー皆感じたと思います。

最後となりましたが、大変お世話になった、『ジャブロー』さん、『うるま家』さんに心より感謝致します。

(竹中 哲郎)